



The Japan Association for Language Education and Technology

外国語教育メディア学会

NEWSLETTER No. 99

March 2021

発行 外国語教育メディア学会 (LET) (会長: 森田 彰)

事務局 〒193-0985 東京都八王子市館町815-1
拓殖大学外国語学部 見上晃研究室内

HP <http://www.j-let.org/>

巻頭言

会長就任にあたって

LET 会長 森田 彰 (早稲田大学)

2020年4月より本部をお預かりすることになった森田彰です。紙上での会長就任のご挨拶の前に、本年度各地で発生しました集中豪雨等で被災されました皆様、また新型コロナウイルスの蔓延により様々な災禍、ご不自由を被られた皆様に心よりのお見舞いを申し上げます。更に、新型コロナ対策の最前線でご尽力されている、特に医療従事者の皆様に最大限の敬意を表させていただきます。

本学会においても、夏の全国研究大会、各支部の研究大会・研究会が延期、オンラインで開催される中、学会役員の皆さんが会員の成果発表と情報交換の場を確保すべく奮闘されています。ご努力に心より感謝いたします。

このような多難な時に、会長を仰せつかり、心が引き締まる思いです。お蔭様で、副会長(各支部支部長)、本部役員に支えられ、新本部がスタートしました。これから2年間、力を尽くし会員の皆さんの学会活動をサポートして参る所存です。賛助会員の皆さんからの情報も集約し発信して参ります。

LETは、社会の変化の有様を正しく分析し、テクノロジーを活用することによって、より良い方向に導く研究と実践を行って来ました。そのLETが、今こそ力が発揮できるよう、本部執行部一同、努力いたします。しかしながら、執行部とは、会員の皆さんのご意思、ご要望を集約、具体化し執行するものです。会員の皆さんが積極的に学会に参加され、ご意見やご要望を示されて、初めてその機能を果たすことができます。その機会を今後もより多く作って参ります。

事態の好転は、来年度を待たざるを得ない様子ですが、皆様と共にこの未曾有の苦難を乗り越え、また直接お会いできます日を楽しみにしております。その日まで、私達本部は、各支部事務局とともに、会員の皆様のご支援を糧とし、可能な限りに会員の皆様の研究のお助けとなるよう、努めて参りますので、どうぞ宜しくお願いします。

目次

巻頭言	1
追悼	2
2018年度外国語教育メディア学会学会賞受賞者寄稿	5
2020年度外国語教育メディア学会学会賞受賞者寄稿	6
第58回(2018年度)全国研究大会報告	8
第59回(2019年度)全国研究大会(FLEAT)報告	10
2017年度本部事業報告・決算報告	12
2018年度本部事業報告・決算報告	14
2019年度本部事業報告・決算報告	16
2020年度本部事業計画・予算	18

丹羽義信先生を偲んで

柳 善和 (LET 中部支部、名古屋学院大学)

語学ラボラトリー学会 (LLA、現外国語教育メディア学会 LET) 第 5 代会長をお務めになった丹羽義信先生が 2019 年 12 月 23 日に老衰のため逝去されました。享年 96 歳でした。

丹羽義信先生は、愛知県生まれで、名古屋大学文学部言語学科卒、同大学院修士課程修了、1975 年「古代英語動詞接頭辞 Ge-の研究」で名古屋大学文学博士とられました。名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校教諭、名古屋大学教養部助教授、同言語文化部教授をお務めになり、1987 年に定年退官され、名古屋大学名誉教授になられています。その後、中部大学教授に就任され、同大学語学センター長をご兼任になりました。

LET でのお仕事としては、前述のように第 5 代会長を 1988-1993 年度までの 3 期 6 年間お務めになり、この間、1992 年に米国 IALL (現 IALLT) との共催により、FLEAT II を中部大学 (愛知県春日井市) で開催されました。IALLT との交流は今日まで親しく続いています。

また、中部支部支部長を、1982 年から 1993 年までの 12 年間の長きにわたりお務めになり、中部支部の発展を主導していただきました。

私は LLA の研究大会に出席し始めた頃に、丹羽先生に初めてお目にかかっていますが、その当時から学会の重鎮でもあり、私にとっては、ご挨拶に何うのもためらうような雰囲気をお持ちでした。丹羽先生は、研究発表会場に毎回お越しになり、特に若手の研究者の発表を前の方の中央の席で熱心にお聞きになっており、発表終了後は必ず質問をいくつかされていました。そして、「おもしろい研究だからぜひ続けて下さい」と、お声をかけ続けていらっしゃったのを覚えています。また、丹羽先生はカメラ、自動車、バイオリンなど機械や道具がお好きで、ご自身でいろいろと整備をされたりしていらっしゃったとも伺っています。このようなこともあって、最初は古英語の文法研究・史料研究がご専門であられたにもかかわらず、教育機器を使った外国語教育の実践を志していた LLA とのご縁がどこかであったのだろうと想像しています。

丹羽先生に最後にお目にかかったのは、2015 年 5 月に椋山女学園大学 (名古屋市千種区) にて開催された中部支部研究大会でした。当時、丹羽先生は体調があまりすぐれなかったと記憶しています。ただ、会場にご到着の後にはお話も弾み、お元気を少し取り戻されたようにお見受けしました。

心よりご冥福をお祈りいたします。



丹羽先生（左）と柳前会長（右）

河野守夫先生を偲ぶ

野村 和宏（LET 関西支部、神戸市外国語大学）

学会創立 50 周年を記念して 2010 年 8 月に横浜で開催された LET 全国研究大会で、学会に大きな貢献を果たされた先生方のお一人として河野先生をお招きしましたが、残念ながらそのお姿をお見かけすることはありませんでした。その時、既に河野先生は病に伏しておられたのでした。長く闘病生活を続けられ、この 2020 年 8 月 3 日、87 歳でご逝去されました。ご葬儀はコロナウィルス感染症の影響もあり、カトリック夙川教会で近親者のみにて厳かにそして心優しい雰囲気の中で執り行われました。幸い私も限られた方々と共に臨席させていただくことができました。

河野先生は日本における語学演習装置 LL 導入の先駆者のお一人でした。アメリカで開発が進み日本にもようやく入ってきた LL を、当時、勤務校であった大阪星光学院中学校・高等学校にもいち早く導入されました。その後、LL の普及と共に教育工学分野が広く知られるようになり、『英語教育工学講座』では LL の項目について執筆されました。

学会設立の経緯は『外国語教育メディア学会 50 年の歩み』にも詳しく記されていますが、河野先生は、現在の LET の前身となる LLA の設立当初から本学会に関わってこられました。さらに 1996 年から 2 期

4年間、関西支部長を務められ、私も河野支部長の元で事務局長として学会活動について多く学びました。

思い出の中でも強く印象に残っているのが、1998年に福岡の西南学院大学で行われた全国大会の際の理事会です。ここでは、21世紀を目の前にして、時代の流れに対応していくため、学会名称を「語学ラボラトリー学会(LLA)」からどのように変更するかについて白熱した議論が展開されました。学会名称そのものに「テクノロジー」を入れるべきだという意見に対して、河野先生は「メディア」という言葉の奥深さを熱心に説かれ、結果的に日本語名称は「外国語教育メディア学会」になりました。一方「テクノロジー」という言葉は「The Japan Association for Language Education & Technology」という形で英語名称の方に残すことが翌年の理事会で決まりました。LLAからLETをこよなく愛された河野先生は、外国語教育の進展には科学的・実証的研究と教育実践の両輪が大切であると説き、その門下からは多くの優れた教え子を世に送り出してこられました。

神戸市外国語大学では1971年から定年で職を退かれる1998年までの間、教鞭をとられました。河野先生は英語教育学、とりわけ音声学、心理言語学などに精通され、神戸外大では、率先して衛星放送受信設備を設置して海外放送を授業に取り入れ、また音声実験装置を揃えて科学的・実証的研究を推し進められました。私自身も神戸外大に入学した最初の年から、学部だけでなく大学院に至るまで、また卒業後も引き続き学会を通し、ずっと継続してご指導いただくことができました。学生時代には頻繁に河野先生の研究室で他の学生たちと一緒に、先生お気に入りの紅茶をいただきながら、研究書を輪読したり、英語教育談義に花を咲かせたりと、時間を忘れて議論を楽しんだことを思い出します。

教育研究に人生を捧げられた河野先生の思いを引き継いで研鑽に励んでいきたいと思います。安らかにお休みください。



河野先生

2018 年度論文賞

対象論文：Pedagogical Intervention to Enhance Self-determined Forms of L2 Motivation: Applying Self-determination Theory in the Japanese University EFL Context. *Language Education & Technology*, 54, 135-166, 2017.

著者：阿川 敏恵（清泉女子大学）・竹内 理（関西大学）

論文賞を受賞して

阿川 敏恵（LET 関東支部、清泉女子大学）

このたび、外国語教育メディア学会（LET）学会賞（論文賞）という大変名誉ある賞をいただいたことを非常に光栄に思っております。学会の役員の先生方をはじめ、ご推薦いただきました先生方、選考委員の先生方、論文の査読をしてくださった先生方、そして LET 機関紙編集委員の先生方に心よりお礼を申し上げます。国内に数ある学会の中でも特に LET は、長い歴史を有し、外国語教育について広く、深く、そして新たな知見を得ることのできる素晴らしい学会です。このような権威ある学会から賞をいただいたことは誠に嬉しく、今後の大きな励みとなりました。

論文賞をいただきました論文は、第一著者である阿川が、第二著者の竹内 理先生のご指導・ご協力をいただきながら、関西大学大学院博士課程後期課程で取り組んだ研究プロジェクトの一部を論文にしたものです。実はこの論文は阿川の博士論文を構成する 5 つの studies のうちの最後のものでした。阿川にとっては、職場や自宅のある首都圏と大学院のある大阪を行ったり来たりしながら研究プロジェクトを進めることは、易しいことではありませんでした。しかし竹内先生の厳しくも愛のあるご指導と、助け合い、高め合うことのできる仲間たち、そして理解とサポートをしてくれた家族のお陰で、何とか乗り切ることができました。このようにして試行錯誤の末やっとたどり着いたプロジェクトの仕上げの論文がこのような賞を受賞でき、喜びもひとしおです。これまでの研究を支えて下さったすべての方々に感謝すると共に、今後もコツコツと研究に取り組んでゆく決意を新たに致しました。

最後になりましたが、今後の LET の益々のご発展をお祈りするとともに、引き続きのご指導、ご鞭撻をいただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

2020 年度教材開発賞

対象業績：言語研究・教育用アプリケーションの開発とそれらの無償公開

受賞者：今尾 康裕（大阪大学）

教材開発賞を受賞して

今尾 康裕（LET 関西支部、大阪大学）

この度、2020 年度外国語教育メディア学会（LET）教材開発賞を賜りありがとうございます。学会役員の先生方をはじめ、学会賞選考委員の先生方、私を推薦していただいた先生方に深く御礼を申し上げます。また、今回受賞の対象となった一連のアプリケーションは Mac でしか使えないものですが、それでも賞をいただけたということで、LET の懐の深さに感謝いたします。

特に、関西支部メソドロジー研究部会のメンバーの方々には常日頃から刺激を受け、感謝してもしきれないほどです。関西に移り住んで、日本の大学の先生方ともまったくつながりがない状態で参加した研究会に始まって、継続して研究会に参加して深い議論を重ねたり、その後の懇親会でもさらに熱く語り合ったり、「メソ研」がなければ、このような機会には恵まれることはあり得なかったと思います。また、研究会メンバーの多くが Mac ユーザーであったことも、Mac 用のアプリケーションを開発していく上では大変励みになりました。

今回の受賞では、アプリケーションの開発を評価していただいたのですが、私は元々プログラミングのトレーニングを受けたわけではなく、受けた研究のトレーニングも言語分析ではなく言語テストです。大学院生の時に色々な偶然が重なってスクリプトを書くようになり、博士論文の研究を行う際に、学習者エッセイと評価の関係を見るためにコーパス分析を Mac で行いたいがないアプリケーションがないから作ってしまえ、という思いつきで、インターネットの情報を頼りに独学でコーパス分析のアプリケーションである CasualConc の開発を始めたことがここまできたというのは、個人的にとっても感慨深いです。

その後開発を始めた文字起こし補助アプリケーションである CasualTranscriber は、博士論文のデータ集めに協力していただいた先生がビデオ素材の書き起こしに苦労しているところから試しに作ってみたものでした。自らも授業での教材準備に使用して、音声素材と書き起こしたテキストを使って教材にする機能などをつけるなど、教育的な要素を取り入れたものになっています。ただ、実際には教育に関係のないインタビューの書き起こしなどで使われている方が多いようですが。

今回このような賞をいただいて、ここで終わりではなく、アプリケーションの開発を継続させて、さらに使いやすいものにしていきたいと決意を新たにしました。LET の会員の皆さまには Windows をお使いの方が多いかとは思いますが、この春の関西支部研究大会のワークショップのために、CasualConc を中心としたアプリケーションを使って言語分析を行うためのチュートリアルビデオを作成しましたので、関西支部のウェブサイトから辿ってぜひご覧になってみてください。それで、少しでも多くの先生方が Mac を買ってみよう、と思っただけいたらこの上ない幸せです。

2020 年度学術賞

対象業績：外国語教育におけるライティング指導・研究の展開と、その基盤としての Web システムの開発
受賞者：山西 博之（中央大学）

学術賞受賞の喜び

山西 博之（LET 関西支部、中央大学）

この度は、2020 年度外国語教育メディア学会（LET）学術賞という大変荣誉ある賞を授与いただき、誠に光栄に存じます。推薦くださった先生方、選考委員会の先生方、理事会の先生方に、深く感謝申し上げます。また、これまで共同研究を行ってきた先生方にも心より御礼申し上げます。

私にとって LET は最も思い入れの深い学会となりますので、少しだけ昔話をするをお許しください。

私が LET に入会したのは、今から約 18 年前、修士 1 年の時でした。その年の夏休みに同じ研究科の同級生と質的研究手法の勉強会を開催しました。当時、心理学の分野で質的研究が盛んになりはじめ（『質的心理学研究』第 1 巻の刊行が 2002 年、質的心理学会の発足が 2004 年といった頃です）、その新しい手法や考え方を外国語教育研究にも適用できないかと考えてのことでした。その勉強会の成果についてまとめた内容を理論的な論文として共著で執筆し始めたのが、同年の秋口でした。ただ、なんとかドラフトが完成したのは良いのですが、この理論的論文を外国語教育の分野のどの学会誌に投稿するべきか、ずいぶん悩んでしまいました。そこで、大学院で大変お世話になっていた、研究手法に大変明るい、とある先生に相談しました。その先生はドラフトをしっかりと読んでくださり、「新しくておもしろいことなら、レットよ」とご助言くださいました。

その助言を（真に）受け、その論文を投稿メ切日に何とか間に合わせ、LET 機関誌に投稿しました（当時は、投稿事前申し込み制度はありませんでした）。そしてその論文は、大変幸いなことに、機関誌の査読を経て、無事掲載いただくことができました。実は、その論文が私の論文投稿のデビュー戦でした。初めて第一著者で学術雑誌に投稿した論文に対して、査読を受け、そして採択通知を受け取った時の喜びを、今でも思い出すことができます（当時、査読結果は郵便で届きましたので、機関誌編集委員会からの封筒を開封したときの緊張もまた、鮮明に思い出せます）。

その後、非常に幸運なことに、その論文を含め、3 年連続で LET 機関誌に論文を掲載いただくことができました。そのことは、私の研究者としての自信となり、またキャリア形成にとっても、極めて大きな意味を持つものであったと確信しています。当時のあの経験がなければ、博士課程に進学しなかった（できなかった）かもしれません。

こういったことを思い出しつつ、この度、大変思い入れの深い LET から、学術賞という素晴らしい賞を授与いただくことができ、心から嬉しく思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、18 年前、私と LET との関わりを作ってくくださった、「けいろうさん」こと、広島大学外国語教育研究センターの前田啓朗先生に受賞の報告をしたいと思っております。

第 58 回（2018 年度）全国研究大会報告

全国大会を終えて

大会委員長（近畿大学 菅井康祐）

2018 年度第 58 回全国研究大会は、8 月 7 日～9 日の 3 日間、千里ライフサイエンスセンターで開催されました。台風の影響が懸念される中、600 人近い参加者の皆さまをお迎えすることができました。

今大会は、さまざまな意味でこれまでとは異なる研究大会となりました。まず、大会の実施が、「大学入試共通テスト」・4 技能型試験（民間試験）の導入を目前にし、大きな懸念があげられている時期であることです。大会を企画する時点で実行委員会でもこれについて広く議論する場が必要だという意見があり、大会テーマを「外国語教育における 4 技能評価再考」とすることにし、多様な意見を共有する目的から、賛成・反対それぞれの研究者・教育者の方々にご登壇いただくことにしました。

また、プログラムの構成でも例年とは異なる形をとりました。ワークショップにあそぶことが多い初日に、講演とシンポジウムを開催し、広く会員以外の方にも参加頂ける公開イベントとしました。石川慎一郎先生のご講演では学習者コーパスに基づいた研究成果をご紹介いただき、効果の高いカリキュラム作成の必要性について提言をいただきました。山田泰造氏・田中十督先生・竹内理先生によるシンポジウム「大学入試改革：中等・高等教育の現場から」では、山田室長による制度設計についてのご説明、田中先生の 4 技能統合を目指した指導実践、竹内先生による大学として入試に求められるもの、入試改革について今何が起きているのかを知る手がかりを提示していただきました。

二日目・三日目には研究発表・公募シンポジウム・ポスター発表・業者プレゼンテーションに加えて、2つの講演とパネルディスカッションを開催しました。荘島宏二郎先生のご講演では、大学入試センター試験の英語が統計的にはよくできたテストであるということをご説明いただき、ご自身の作問委員の方々との関わりや逸話を盛り込んだ興味深いお話も盛り込みながら、教員がセンター試験の作成にかかわる意義についてお話をいただきました。

野口ジュディー先生（元関西支部副支部長）のご講演では、AI をはじめ様々な技術が発達する中で、外国語としての英語教育・英語教師の今後について野口先生の長年の ESL 研究の視点からの提言をいただきました。最終日に開催されましたパネルディスカッションでは、柳瀬陽介先生、亙理陽一先生、松井孝志先生、寺沢拓敬先生がそれぞれの立場から、大学入試改革と高校英語教育での四技能統合についての問題提議をいただきました。柳瀬先生はご発表のなかで「あまりこの学会と関わりがないメンツを expendables として引っ張り出したのだろう。」というようなことをおっしゃられていましたが、そのような意図は全く無く、参加された方々からも「大変刺激的で考えさせられた」とコメントをいただく大変内容の濃い議論となりました。

最後になりますが、本大会実施に当たり中心となってご尽力いただいた杉森直樹大会実行委員帳、中西のりこ大会事務局長を始め実行委員の先生がた、支部運営委員を中心とする拡大実行委員の先生がた、いろいろな場面でお力添えを頂いた尾関修治本部事務局長、学生アルバイトの皆様、そしてご発表者および参加者の皆様に心より御礼を申し上げます。次回は関東での FLEAT VII となりますが、また皆様のお目にかかれるのを楽しみにしています。

全国研究大会を終えて

大会事務局長 中西のりこ (神戸学院大学)

2018年8月7日～9日の日程で、LET58回全国研究大会が千里ライフサイエンスセンターで開催されました。千里ライフサイエンスセンターでの開催は2015年のLET55回大会に引き続き2回目でしたので、LET本部の先生方、LET57回大会担当の中部支部の先生方だけでなく、2015年に大会実行委員を務められた関西支部の先生方のアドバイスもいただきながら準備を進めることができたのは非常に幸運でした。おかげさまでLET会員・非会員含め延べ550名を越えるご参加があり、特にライフホールでは常に補助いすの心配が必要な状態となりました。ご参加くださった方々には、満員の会場でご不便をおかけしたこともあったかと存じます。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

LET会員による公募シンポジウム・研究発表・実践報告・ポスター発表、賛助会員によるデモンストレーションに加え、8月7日は石川慎一郎先生(神戸大学)によるご講演「日本人英語学習者のL2発信技能：学習者コーパスに基づくアジア圏国際比較の視点から」、山田泰造様(文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室)・田中十督先生(西南学院中学校・高等学校)・竹内理先生(関西大学)によるシンポジウム「大学入試改革：中等・高等教育の立場から」、8月8日は荘島宏二郎先生(独立行政法人大学入試センター)によるご講演「センター試験「英語」を偲ぶー統計的剖検ー」、Judy Noguchi先生(神戸学院大学名誉教授)によるご講演「Sustainability of EFL teaching: EFL教育の持続可能性」、8月9日は柳瀬陽介先生(広島大学)・亙理陽一先生(静岡大学)・松井孝志先生(山口県鴻城高等学校)・寺沢拓敬先生(関西学院大学)によるパネルディスカッション「大学入試改革は、高校英語教育での四技能統合を推進するののか?」と、非常に盛りだくさんかつ有意義な3日間となりました。

また今大会では、託児サービスの試行・発表者ご自身による司会および記録・スカイプによるパネルディスカッションなどの新しい試みを取り入れましたが、参加者・発表者・講師の方々のご協力のおかげ様で、滞りなく進行することができましたこと、深くお礼申し上げます。一方、発表申し込み・採択通知から大会プログラム作成に至る流れや、要項集原稿作成依頼の手順の改善案について、発表者の先生からいくつか貴重なご指摘をいただきました。同時に、昨年度に引き続き大会当日に台風の直撃を受ける可能性があったため、不測の事態に備えた発表キャンセルなどの基準を統一する必要性を痛感しました。LET本部および2019年度のLET59回全国研究大会開催担当となります関東支部の先生方へバトンをお渡しするにあたって申し送り事項とし、今後のLET全国研究大会が一層すばらしいものとなることを祈念します。

最後になりましたが、大会開催準備にご尽力くださいました全国大会実行委員・拡大実行委員の先生方や、アルバイトスタッフとして活躍してくださった関西大学大学院生のみなさん、大会を支えてくださいました参加者のみなさまに、感謝申し上げます。ありがとうございました。

第 59 回（2019 年度）全国研究大会（FLEAT VII）報告

International Conference on Foreign Language Education and Technology (FLEAT) VII

（兼 外国語教育メディア学会（LET）第 59 回全国研究大会）報告

大会実行委員長 小野 雄一

外国語教育メディア学会（LET）と International Association for Language Learning Technology (IALLT) の共催による FLEAT VII（兼 LET 第 59 回全国研究大会）は、以下の通り、無事終了しましたので、ご報告いたします。

日程：2019 年 8 月 6 日（火）～9 日（金）

会場：早稲田大学早稲田キャンパス 11 号館

大会テーマ：Language Learning with Technology Facing the Future

後援：文部科学省、大学英語教育学会（JACET）、全国英語教育学会（JASELE）

実施内容	ワークショップ	9 件
	基調講演	3 件
	公募シンポジウム	1 件
	研究発表・実践報告	113 件
	ポスター発表	25 件
	賛助会員デモンストレーション	11 件
参加者数	大会参加者	449 名（有料参加者 338 名）
	ワークショップ参加者	148 名（延べ数）
	東京半日バスツアー参加者	23 名（有料参加者 16 名）
	賛助会員	23 社

大会参加者（有料参加者 338 名）の内訳

LET 会員 247 名（個人・団体会員 221 名、学生会員 26 名）

IALLT 会員 9 名

非会員 82 名

以上



On behalf of the Executive Committee, we are pleased to say thank you to each of you who have attended FLEAT 7 International Conference on August 6-9 held at Waseda University. The conference attracted about 400 participants from all over the world to Tokyo. We really appreciate you for taking the time and effort to participate in the conference. This conference would not have been a success without your continuous contribution. LET and IALLT are discussing that the next FLEAT 8 conference in 2025, which is hosted by IALLT. Again, we would like to thank you all for your contribution.

Yuichi Ono, Ph.D.

General Chair of FLEAT 7 Executive Committee

Language Learning with Technology Facing the Future

FLEAT (Foreign Language Education and Technology) VII, jointly sponsored by the International Association for Language Learning Technology (IALLT) and the Japan Association for Language Education and Technology (LET), will be held at Waseda University, Tokyo, Japan, from August 6 to 9, 2019. Furthermore, the event is supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), and the following two associations: The Japan Association of College English Teachers (JACET) and Japan Society of English Language Education (JASELE). The Pre-conference events (workshops) will take place on August 6. The main conference will begin on August 7.

(FLEAT VII のサイト <https://www.j-let.org/fleatvii/> より転載)

2017 年度本部事業報告

4月	賛助会員募集（以下随時） 学会賞（事前審査）・選考委員会開催（メール会議）	LET blog 147 号発行
5月	学会賞選考委員会開催（メール会議）	LET blog 148 号発行
6月	学会賞選考委員会開催（メール会議） 機関誌電子版 J-STAGE 搭載・CiNII より移行準備作業	LET blog 149 号発行
7月	機関誌 54 号発行・会員宛送付 Newsletter No. 98 原稿募集開始 学会賞受賞候補者の承認を理事会に依頼（メール稟議） 学会賞受賞者決定・広報・賞状作成 本部会計（2016 年度分）監査実施 機関誌電子版 J-STAGE 公開開始 あゆみコーポレーションと業務打ち合わせ	LET blog 150 号発行
8月	LET 全国研究大会（第 57 回全国研究大会）開催（名古屋学院大学・8/5～7） 機関誌編集委員会・支部長連絡会・理事会開催 8/5 全国総会・学会賞授賞式 8/6 理事会議事録作成 機関誌 55 号投稿申込締切 8/31	LET blog 151 号発行
9月		LET blog 152 号発行
10月		LET blog 153 号発行
11月	機関誌 55 号応募論文提出締切 11/30 Newsletter No. 98 広告募集	LET blog 154 号発行
12月	理事会議事録発行 機関誌編集委員会・応募論文査読者決定 Newsletter No. 98 編集	LET blog 155 号発行
1月	機関誌査読依頼 会長・副会長会議（1/28・名古屋学院大学）	LET blog 156 号発行
2月	機関誌 55 号応募論文再審査原稿提出	LET blog 157 号発行
3月	学会賞候補者推薦依頼 機関誌 55 号応募論文結果通知 学会賞候補者推薦締切・候補者資料収集準備	LET blog 158 号発行

外国語教育メディア学会 (LET)本部2017年度決算(案)

2018年4月30日

収入の部

費目	予算	決算	備考
前年度繰越金	1,030,819	1,165,549	
賛助会費	2,000,000	1,950,000	39社*50,000
一般会費	1,200,000	1,232,000	前年度各支部会費収入*0.15
雑収入	100,500	15	広告掲載料 0 銀行利息 15
法人化準備積立金	300,000	600,000	定期預金より組み込み
合計	4,631,319	4,947,564	

支出の部

費目	予算	決算	備考
印刷費	1,447,600	1,271,052	機関誌54号 1,271,052 NEWSLETTER 98号:オンライン版のみ 0 その他 0
会議費	40,000	23,544	会長副会長会議会議室使用料
通信費	220,000	152,288	機関誌発送料を含む
ネットワーク関係費	570,000	537,840	本部サーバー管理・業務委託料、ドメイン維持料など
旅費交通費	300,000	374,257	会長副会長会議旅費などの公務出張の交通費補助
事務用品費	40,000	67,840	文具・用紙・トナー・学会賞賞状作成費など
支払手数料	8,000	8,324	銀行振込手数料
諸会費	50,000	50,000	教育系・言語系学会連合会費
全国大会開催費	1,220,000	1,411,769	全国大会業務委託費(事前受付他) 611,769 担当支部への支払い(理事会等開催費を含む) 800,000
業務委託費	0	569,160	会費徴収業務委託 61,560 法人化準備の一環として会計事務所顧問料・会計整理業務 507,600
雑給	20,000	0	事務局業務アルバイト料など
国際交流委員会費	100,000	0	IALLTとの連携に関わる費用他
法人化準備積立金	600,000	392,400	2017年度積立金300,000を含む・積立残金92,400
繰越金	15,719	89,090	
合計	4,631,319	4,947,564	

以上の通り報告します。

2018年8月2日

本部事務局長

尾関修志



上記内容につき相違ないことを確認しました。

2018年8月3日

会計監査

石泉隆



2018年8月3日

会計監査

村尾玲美



2018 年度本部事業報告

4月	賛助会員募集（以下随時） 学会賞（受付・事前審査）	LET blog 159 号発行
5月	学会 HP、ML 更新作業（以下随時）	LET blog 160 号発行
6月	あゆみコーポレーションと業務打ち合わせ	LET blog 161 号発行
7月	学会賞選考委員会開催（メール会議）	LET blog 162 号発行
8月	本部会計（2017 年度分）監査実施 LET 全国研究大会（第 58 回全国研究大会）開催（千里 ライフサイエンスセンター・8/7～9） 機関誌編集委員会・支部長連絡会・理事会開催 8/7 全国総会 8/8 Newsletter No. 99 原稿募集開始 学会賞受賞候補者の承認を理事会に依頼（メール稟議） 学会賞受賞者決定・広報・賞状作成 機関誌 56 号投稿申込締切 8/31	LET blog 163 号発行
9月		LET blog 164 号発行
10月	Newsletter の J-STAGE 搭載申込手続受付	LET blog 165 号発行
11月	あゆみコーポレーションと業務打ち合わせ 学会賞授賞式（11/24 関西支部研究大会） 機関誌 56 号応募論文提出締切 11/30	LET blog 166 号発行
12月	機関誌 55 号発行・会員宛発送作業 機関誌編集委員会・応募論文査読者決定 Newsletter No. 99 編集	LET blog 167 号発行
1月	機関誌査読依頼 理事会議事録発行	LET blog 168 号発行
2月	機関誌 56 号応募論文再審査原稿提出 Newsletter の J-STAGE 搭載申請資料提出 会長・副会長会議(2/17・名古屋学院大学)	LET blog 169 号発行
3月	学会賞候補者推薦依頼 機関誌 56 号応募論文結果通知賛助会員募集 学会賞候補者推薦締切・候補者資料収集準備 賛助会員募集	LET blog 170 号発行

外国語教育メディア学会(LET)本部2018年度決算(案)

2019年4月30日

収入の部

費目	予算	決算	備考
前年度繰越金	89,090	89,090	
賛助会費	2,000,000	1,900,000	38社*50,000
一般会費	1,440,000	1,367,000	前年度各支部会費収入*0.18
雑収入	60,015	8,864	機関誌頒布等 8,862 銀行利息 2
法人化準備積立金	92,400	92,400	
合計	3,681,505	3,457,354	

支出の部

費目	予算	決算	備考
印刷費	900,000	1,319,166	機関誌55号
会議費	25,000	13,608	会長副会長会議会議室昼食
通信費	160,000	148,977	機関誌発送料を含む
ネットワーク関係費	400,000	578,340	本部サーバー管理・業務委託料、ドメイン維持料など
旅費交通費	334,545	295,709	会長副会長会議旅費などの公務出張の交通費補助
事務用品費	30,000	20,804	文具・コピー代・トナー・学会賞賞状作成費など
支払手数料	8,000	5,942	銀行振込手数料
諸会費	50,000	50,000	教育系・言語系学会連合会費
全国大会開催費	1,400,000	895,752	全国大会業務委託費(事前受付他) 495,752 担当支部への支払い(理事会等開催費を含む)の半金 残金400,000は翌年度支払い 400,000
業務委託費	261,560	56,160	会費徴収業務委託
雑給	0	0	事務局業務アルバイト料など
国際交流委員会費	20,000	0	IALLTとの連携に関わる費用他
雑費	0	14,395	國吉先生香典・弔電
法人化準備積立金	92,400	92,400	積立残金92,400
繰越金	0	-33,899	
合計	3,681,505	3,457,354	

以上の通り報告します。

2019年8月2日

本部事務局長

尾関 修治



上記内容につき相違ないことを確認しました。

2019年8月2日

会計監査

木下 徹



2019年8月2日

会計監査

杉浦 正利



2019 年度本部事業報告

4月	賛助会員募集（以下随時） 学会賞（受付）	LET blog 171 号発行
5月	学会 HP、ML 更新作業（以下随時） 学会賞選考委員会開催（メール会議）	LET blog 172 号発行
6月	学会賞選考委員会開催（メール会議）	LET blog 173 号発行
7月	学会賞選考委員会開催（メール会議）	LET blog 174 号発行
8月	本部会計（2018 年度分）監査実施 FLEAT VII・LET 全国研究大会（第 59 回全 国研究大会）開催（早稲田大学・8/6～9） 機関誌編集委員会・支部長連絡会・理事会開 催 8/6 学会賞選考結果を理事会に報告 全国総会 8/7 機関誌 57 号投稿申込締切 8/31	LET blog 175 号発行
9月		LET blog 176 号発行
10月	機関紙印刷依頼打ち合わせ・J-STAGE 業務 打ち合わせ	LET blog 177 号発行
11月	機関誌 57 号応募論文提出締切 11/30	LET blog 178 号発行
12月	機関誌 56 号発行・会員宛発送作業 機関誌編集委員会・応募論文査読者決定	LET blog 179 号発行
1月	機関誌査読依頼 理事会議事録発行	LET blog 180 号発行
2月	機関誌 57 号応募論文再審査原稿提出 会長・副会長会議(2/16・名古屋学院大学)	LET blog 181 号発行
3月	学会賞候補者推薦依頼 機関誌 57 号応募論文結果通知賛助会員募集 案内	LET blog 182 号発行

外国語教育メディア学会(LET)本部2019年度決算(案)

2020年4月30日

収入の部

費目	予算	決算	備考
前年度繰越金	-33,899	-33,899	
賛助会費	1,900,000	1,750,000	35社*50,000
一般会費	1,400,000	1,200,000	前年度各支部会費収入*0.18
雑収入	10,000	0	
法人化準備積立金	92,400	92,400	
合計	3,368,501	3,008,501	

支出の部

費目	予算	決算	備考
印刷費	1,400,000	1,146,288	機関誌56号
会議費	25,000	17,880	会長副会長会議会議室使用料・昼食
通信費	160,000	131,546	機関誌発送料を含む
ネットワーク関係費	850,000	540,330	本部サーバー管理・業務委託料、ドメイン維持料など
旅費交通費	250,000	322,300	会長副会長会議旅費などの公務出張の交通費補助
事務用品費	40,000	26,860	用紙・コピー代・トナーなど
支払手数料	8,000	6,955	銀行振込手数料
諸会費	50,000	50,000	教育系・言語系学会連合会費(2019年度まで)
全国大会開催費	400,000	400,000	担当支部への支払い残金
業務委託費	56,160	83,160	会費徴収業務委託
雑給	0	0	事務局業務アルバイト料など
国際交流委員会費	20,000	0	IALLTとの連携に関わる費用他
雑費	16,941	0	
法人化準備積立金	92,400	92,400	積立残金92,400
繰越金	0	190,782	
合計	3,368,501	3,008,501	

以上の通り報告します。

2020年8月21日

本部事務局長

尾関修治



上記内容につき相違ないことを確認しました。

2020年8月26日

会計監査

水下徹



2020年8月26日

会計監査

杉浦正利



2020 年度本部事業計画

4月	賛助会員募集（以下随時）	LET blog 第 183 号発行
5月	学会 HP、ML 更新作業（以下随時）	LET blog 第 184 号発行
6月	HP バナー広告募集（1 期）	LET blog 第 185 号発行
7月	学会賞選考員会開催（メール会議） HP バナー広告掲載（1 期）	LET blog 第 186 号発行
8月	機関誌編集員会開催 支部長連絡会議・理事会開催 8/29 学会賞受賞候補者の承認・決定（理事会） 機関誌 57 号発行（J-STAGE） 機関誌 58 号投稿申込締め切り 8/31 Newsletter No. 100 原稿募集開始	LET blog 第 187 号発行
9月	全国総会開催 9/6 学会賞受賞者広報・賞状贈呈（郵送） HP バナー広告募集（2 期）	LET blog 第 188 号発行
10月	HP バナー広告掲載（2 期）	LET blog 第 189 号発行
11月	機関誌 58 号応募論文提出締切 11/30	LET blog 第 190 号発行
12月	機関誌編集委員会・応募論文査読者決定 機関誌査読依頼 HP バナー広告募集（3 期）	LET blog 第 191 号発行
1月	会長・副会長会議開催 HP バナー広告掲載（3 期）	LET blog 第 192 号発行
2月	機関誌 58 号応募論文再審査原稿提出 Newsletter No. 100 発行	LET blog 第 193 号発行
3月	機関誌 58 号応募論文結果通知 学会賞候補者推薦依頼 学会賞候補者推薦締切・候補者資料収集準備 賛助会員継続確認	LET blog 第 194 号発行

外国語教育メディア学会(LET)本部 2020 年度予算(案)

【収入の部】

項目	予算額	内 訳	昨年度
賛助会費	1,200,000	24 社*50000	1,900,000
一般会費	1,200,000	前年度各支部会費収入*0.18	1,400,000
雑収入	1,000		10,000
収益 計(①)	2,401,000		
繰越金(②)	199,715		-33,899
法人化準備積立金(③)	92,400		92,400
収益 計(①+②+③)= ④)	2,693,115		3,368,501

【支出の部】

項目	予算額	内 訳	
印刷費	336,600	機関誌 57 号(データ編集費 ¥240,000、J-STAGE 登録 ¥42,000、抜刷作成 ¥24,000)	1,400,000
会議費	25,000	会長副会長会議他	25,000
通信費	50,000	切手、レターパックなど	160,000
ネットワーク関係費	850,000	本部サーバー管理費・業務委託費、ドメイン維持料・受付フォーム作成費・受付処理業務費など	850,000
旅費交通費	250,000	会長副会長会議旅費などの公務出張の交通費補助	250,000
事務用品費	40,000	文具・用紙・トナー・学会賞状作成費など	40,000
支払手数料	8,000	銀行振り込み手数料	8,000
全国大会開催費	100,000	全国大会参加申し込み機能作成(アゼット)	400,000
雑給	0	事務局業務アルバイト料など	0
国際交流委員会費	20,000	IALLT との連携に関わる諸経費	20,000
雑費	20,000		16,941
費用 計(⑤)	1,699,600		3,169,941
次期繰越(⑥)	901,115		
法人準備積立金(⑦)	92,400	2019 年度から積み立てを保留	92,400
費用 計(⑤+⑥+⑦)= ⑧)	2,693,115		

【Newsletter No.99 発行について】

今般、Newsletter No.99 を発行する運びとなりましたが、諸般の事情により No.98 の発行より 2 年を経過することになってしまいました。遅滞について、学会員の皆様には多大のご迷惑、不都合をお掛けしましたこと、深くお詫びいたします。今後は、本部ホームページの充実などによる即時化、詳細化など、会員の皆様への情報提供の方法を精査、改善して参ります。なお、次回の Newsletter No.100 の発行は、2022 年 2 月を予定しております。

NEWSLETTER No. 99

発行日 2021 年 3 月 2 日

発行所 外国語教育メディア学会 (LET)

会長 森田 彰